

【テーマ4】 団体名 信州大学

「教育委員会の研修講座と教職大学院のカリキュラムを連携させた履修プログラムの開発」

調査の概要

◆課題認識

- ・教育委員会が主催する教員研修が近年の教員の研修ニーズに合っていない。
- ・研修を主催する部署同士の連絡調整が不十分のため研修内容に重複がある。

◆調査研究の目的

- ・教職員がどのような内容・方法による研修を求めているのかを明らかにする。
- ・研修を主催する教育委員会や教育団体などが互いに連携できる形をとり、大学がサポートして連携研修を試行実践する。

◆調査対象

- ・長野県教育委員会、長野県総合教育センター、長野市教育センター、飯田市教育委員会、公益財団法人信濃教育会、信州大学教育学部

◆現状

- 1) 悉皆研修としての事業
 - ◆初任者研修…大学での教員養成との不連動
 - ◆中堅教員研修…各種指定研修等との重複
 - ◆ベテラン教員研修…若手を育てる意識不足
- 2) 希望研修研としての事業
 - ◆教科の専門性向上、地域課題への対応、etc

取組のポイントと成果

◆取組のポイントと実績

ポイント① ニーズに沿った研修の開発

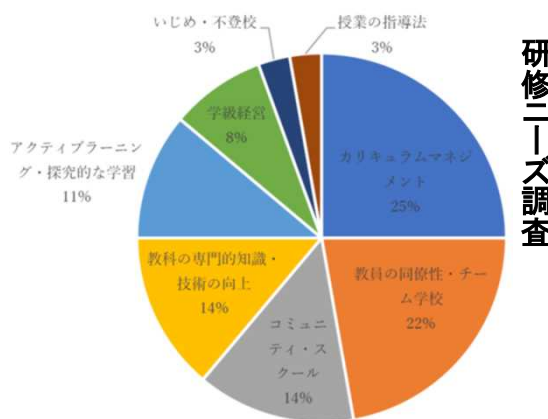
今まで前年度踏襲型の研修が実施されていたが、教育現場・教員のニーズに合わせた研修講座が開発できた。

ポイント② 縦割りを改めた連携講座の開拓

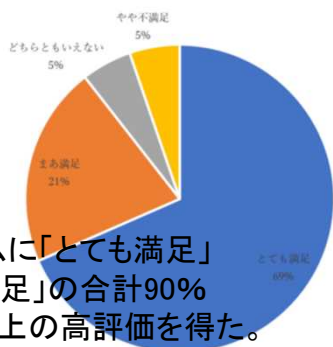
機関・部署ごとに独立して主催し運営していた研修を、大学（教職大学院）との連携講座などに移行して協働して教員研修にあたる体制ができてきた。

ポイント③ 教員側が企画する研修モデル

研修を必要とする教員有志が、研修の内容と方法等を自ら提案するプロジェクト型の研修講座を起ち上げた。



受講者満足度



フォーラムに「とても満足」と「まあ満足」の合計90%
* 予想以上の高評価を得た。

今後の課題

◆ラーニングポイント制の導入

- ・令和2年度に試行実践した研修講座を長野県教育委員会との連携を深めて教職大学院の履修単位に認定できるしくみを具体的につくりあげる（令和4年度正式導入）。
- ・ベテラン教員対象の研修講座の内容・方法を検討する。